

## 私たちも「もんじゅ」廃止署名に賛同します！



もんじゅの事業仕分けが終わりました。9千億円もかけて成果がないという財政問題がありながら再開するという結論。

今ある原発よりも危険な代物をいっただこの地域が受け入れるのでしょうか？

エネルギーの恐竜と化したもんじゅは早く永眠させてあげてください。

鎌仲ひとみ(映画監督)



広瀬 隆(作家)



小林 圭二(元京都大学  
原子炉実験所)



小出 裕章(京都大学  
原子炉実験所)



植田 敦(理学博士)

## 「核なき世界」の為に プルトニウム生産原子炉「もんじゅ」を廃炉に！

2009年11月3日、北朝鮮が核兵器用のプルトニウムを抽出したと報道がありました。「核兵器用」というのはプルトニウムの同位体組成で239の比率が高いプルトニウムという意味に他なりません。日本にはその意味で世界でも最も原爆製造に適したプルトニウムを製造出来る原子炉があります。高速増殖炉と呼ばれる特殊原子炉「もんじゅ」です。

1995年12月に事故を起こして以来、停止していた「もんじゅ」ですが、現在、再開の動きがあり茨城県から首都高速経由でプルトニウム燃料の輸送も行なわれました。米国大統領が「核無き世界」の標語でノーベル平和賞を受賞した年に、日本では、北朝鮮、イランなど核武装を望んでいるとされる国と、技術的に同じ事をしようとしています。意図というのは外からでは見えません。言っていることよりもやっていることが大事です。

「核無き世界」の為に核兵器級プルトニウム製造用  
特殊原子炉「もんじゅ」の廃炉を訴えます。

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-2-13-502  
TEL 03-3261-1128(午前中)、Eメール: syomei@kakukaihatsu-hantai.jp

**「もんじゅ」廃止署名実行委員会**

<http://kakukaihatsu-hantai.jp/syomei>

# もんじゅ廃止を望む5つの理由

## ①兵器級プルトニウムの生産

「もんじゅ」は、六ヶ所再処理工場で原発の使用済み燃料から抽出されたプルトニウムを燃料として用い、核爆弾用として極めて優れた「兵器級プルトニウム」(注)を生産する特殊な原子炉です。兵器級プルトニウムは常識で考えれば「軍用」として生産されるものです。これを「平和目的」という名目で生産することは、諸外国から核武装の為の隠れ蓑とみなされても仕方ありません。ナトリウム漏れ事故までの試運転期間中に「もんじゅ」は17キログラムの兵器級プルトニウムを生産しました。運転が再開され、正常に運転できれば、毎年62キログラムの兵器級プルトニウムを生産します。62キログラムの「兵器級プルトニウム」から、約30発の原爆を生産することができます。10年もすれば、中国と同規模の核兵器保有国家になることも可能です。世界最初の被爆国として、核廃絶を国是とする日本が、大量の「兵器級プルトニウム」を生産、貯蔵することは、「核なき世界」を求め、世界各国の信頼を失うことになりかねません。

## ②直下に活断層

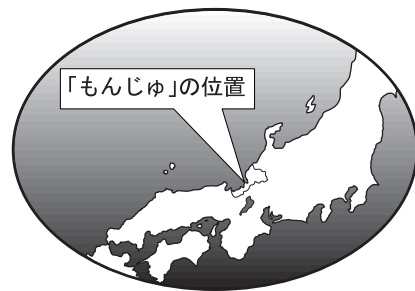
「もんじゅ」の運転再開を延期した理由の一つは、立地点に活断層があることです。C断層と呼ばれる長さ18kmの断層と長さ15kmの白木-丹生断層が敷地の真下にあります。両断層とも想定されている地震はM6.9ですので、東京電力柏崎刈羽原発に大きな被害を与えた2007年7月の新潟県中越沖地震(M6.8)より大きな地震が真下で起きる想定になっています。活断層の上の原発を運転するなど、正気の沙汰ではありません。

## ③ナトリウムの危険

「もんじゅ」は原子炉につながる配管からナトリウムを漏らして火災事故を起こしました。本格的な工事を行えば、費用は1000億円かかるとされました。しかし、本格的な設計変更は見送られ、180億円で済ませたおざなりの修理を行っただけで運転を再開しようとしています。修理後の「もんじゅ」も、ナトリウム漏れ事故など周辺部のどこかから事故が始まり、原子炉本体に波及して、放射能漏れの重大事故になる可能性があります。

## ④プルトニウム増殖のウソ

高速増殖炉はあたかも既に実用化された技術のように宣伝されていますが、現在では実用化予定が2050年になっています。40年前にはすぐにも実現されるかの如く宣伝されていました。年月が経てばたつほど実用化の時期が遠く「実用化しない技術」のパターンです。「もんじゅ」はプルトニウムの増殖をうたい文句にしていますが、「もんじゅ」の中でいくらか増えても、再処理で全量が回収できなければ増殖にはなりません。「もんじゅ」の炉心では貴金属も大量に生成されるので、硝酸に溶けない貴金属に邪魔されて完全にはプルトニウムが取り出せません。実際には増殖しないのです。



注) 核兵器に用いるプルトニウムは、プルトニウム239の割合が94%以上です。「もんじゅ」の炉心燃料を包むブランケット燃料で作られるプルトニウムは98%以上ですから、最高級の原爆材料です。一般の原子炉で作られるプルトニウムは、60%程度です。核爆発は可能ですが、装置が大きくなって運搬できないなど、核弾頭に使用するものではありません。

## ⑤巨額の経済的負担

「もんじゅ」の建設費用に8827億円かかりました。発電設備は28万キロワットですから、1キロワットあたり315万円です。普通原発は1キロワットあたり30万円程度ですから、10倍以上の費用がかかっています。これでは商業発電など夢物語です。修理が終わり、運転を始めると10年間でさらに約2000億円と、巨額の追加費用が必要になります。9千億円弱の予算をつぎ込み、失敗を認めずに更に2000億円の費用をつぎ込もうとしているのです。

「もんじゅ」によって、兵器級プルトニウムを生産し蓄積すると、いずれこれを使用したいという人々が現れることとなります。この動きが現実になったら、もはや止めることは不可能になるでしょう。「もんじゅ」を廃止し、核燃料サイクル政策から撤退し、世界に核廃絶を訴えましょう。